

近畿ブロック交流会

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟



右：京都府のあいさつ 永島民男事務局長



懇親会



講演・荻原三太郎



(616 号付録)

京都版 第 471 号

2025 年 10 月 15 日

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

京都府本部

〒604-8832 京都市中京区

壬生下溝町 51-41

TEL : 075-312-8787

FAX : 075-325-3863

E-mail

Info@kokubai-kyoto.com

ホームページ

http://kokubai-kyoto.com

「近畿ブロック交流会」開催

府本部会長 原田 完

今年には治安維持法制定 100 年であり特別な年です。

天下の悪法と言われる治安維持法ですが、参政党・右翼政党から共産党が困るだけと治安維持法を肯定する発言があったり、スパイ防止法の制定を掲げるなど歴史修正主義、天皇制を主張危険な動きも強まっています。

そうした中、9月27日・28日の両日にわたり治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟近畿ブロック交流会が、私たち京都府本部の担当でウイングス京都で開催されました。

9月27日は、市民集会と合同開催と、通常とは若干違った形での開催となりました。

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟中央本部からは、治安維

持法制定100年として、各都道府県で、より多くの団体と協力して市民集会の積極的開催が提起されていました。

京都府本部としても、国賠同盟近畿ブロック交流会開催と市民的な集会の開催を一つの取り組みとして、より広範な団体・個人の参加を企画し、友誼団体である国民救援会や自由法曹団、民医連、京都総評、新婦人、共産党京都府委員会、府立大学名誉教授井口和起先生、京都宗平協理理事長宮城泰年師等々より多くの協力を得て、映画「小林多喜二」上映と「治安維持法100年を問う・物言わさぬ国家はNO! 京都のつどい」を大きく成功させる事ができました。

午前は映画「小林多喜二」上映

27日は、午前中に50年前に制作された映画「小林多喜二

(今井正監督・主演山本圭)を上映し、180人の方々に鑑賞していただきました。

小林多喜二は、「一九二八年三月一日」『蟹工船』『党生活者』等々の小説を発表したプロレタリア作家で、非法下の中で共産党員となり、1933年2月20日逮捕、虐殺されました。

映画では冒頭から残酷な拷問シーンに始まりました。当時の特高警察の治安維持法は自白が唯一の立証であり、自白を得るためにはなりふり構わず行った暴拳の実態が描かれ、特高の酷さが告発されていました。

鑑賞された多くの人たちから映画は現在にも十分に通じるもので非常に良かったとの感動と感想が寄せられました。

治安維持法100年を問う「もの言わさぬ国家はNO! 京都のつどい」

つどいに先立って国賠同盟京

都府本部では、書籍「レジスタントの京都」を7月25日出版しましたが、マスコミ各紙でも大きく取り上げられました。

発行に至る経緯では治安維持法100年に向けて、4年前から学識経験者をはじめ、多くの方々のご協力のもと研究会を行い、その集約として本の発行に至りました。

本の発行準備を進める傍ら、国民救済会や自由法曹団と一緒に市民集会の準備に取り組み、攻勢的支援を含め広範な人々の協力での成功へとなりました。

午後から始まった市民集会はロビーに袴田氏の拷問の図の絵が飾られ、開会時にはネットでの参加を含め400人(近畿ブロック参加者80人)と会場通路に座る人やホールに入れなかった人たちがロビーで講演を聞くなど、近年にみられなかった

出色の大集会でした。

自由法曹団の福山和人弁護士と救済会の森田しのぶ会長の両司会で始まり、荻野富士夫・小樽商科大学名誉教授の講演「新しい戦中にしないために」は、京都の能勢克夫弁護士の前弁護士の活動、1938年治安維持法で逮捕などの紹介から始まり、参政党などの右翼ポピュリズムの危険性、外国人蔑視と排外主義政党的戦争へと向かう危険性の解明の講演が行われました。

荻野先生の講演の後、京都の各団体、各層からの発言が行われました。井口先生からは「レジスタントの京都」の出版に関わっての発言、原田完会長からは自分の母親の治安維持法での拷問の実態と、治安維持法は過去のことでなく現在につながる問題、新婦人の沢田さんからは治安維持法と女性蔑視ジェンダー問題について、京都総評議

長の梶川さんからは秘密保護法、経済秘密保護法に関わり、その危険性と労働現場の問題点の指摘、最後に日本共産党の渡辺京都府委員長から排外主義とスパイ防止法と改憲への危険性の指摘と闘いへの決意表明が行われ市民集会は閉じられました。

近畿ブロック交流会で意見交換

翌日28日の近畿ブロック交流会は朝9時から、滋賀県本部の高田さんと京都の原田会長の司会で進められました。

国賠同盟永島中央本部事務局長の挨拶と報告を受け、引き続き滋賀県本部、奈良県本部、和歌山県本部、大阪府本部、兵庫県本部・京都府本部の各府県本部より報告を受けて活動交流を行いました。

近畿各府県での支部活動の経験や会員拡大の取り組み、治安

維持法100年となる今日の政治情勢、共同の取り組み等について活動交流を行いました。

また同時に、日本人ファーストを掲げる歴史修正主義や、私たちの暮らし破壊の政治で国民生活が厳しい事態にあります。

その自民党政治の怒りを外国人蔑視の排外主義と、不満を嘘とデマで逸らそうとする潮流に対する戦いへの意見交換が行われ、今後の運動の意思統一を行うことができました。

27日の夜は近畿ブロックの懇親会を行い、自由でフリーな意見交換と交流が行われ親交を深めることができました。

8月16日にTV放映された治安維持法問題と治安維持法の拷問の実態を告発した報道特集のDVDを会場で上映し、荻野先生や井口先生も参加され大変盛り上がった懇親会となりました。

反響続々、『レジスタントの京都』に読者の声!!!

「京都関連治安維持法犠牲者名簿CD版」に、読者から問い合わせのメールがありました。

Mさんより

「レジスタントの京都」を読みました。CDも見ましたが、私が40年前読んだ「紅萌ゆる―昭和初年の青春土屋祝郎著・岩波新書(黄)1978年」の著者の名前が無く、調べてもらえないでしょうか。この本で治安維持法のこと、川端署での拷問のことなど京都でもこんなことがあつたと知りました。三高在学中の出来事です。京都関係と認めますのでよろしく願います。

【事務局より】①ご指摘のとおり、参考資料「治安維持法犠牲者の記録」(小森惠著・2016年、文生書院)では、チェックしていたのですが打ち込みを漏

らすミスをしました。申し訳ありません。特高月報では、土屋

祝郎(ツチャ トキロウ)となつていますが、戦後の自著「紅萌ゆる」では、「シユクロウ」となっているので、特高月報S7・1起訴猶予 京都地検の誤りか、もしくは本人が戦後に読み方を改名したか、現時点では不明。

②土屋祝郎・1908年生、1996年没、秋田県生まれ、1932年(京都) 三高中退。

③闘争歴…1932年1月、学生自治会活動から共青加入し凶作支援活動で検挙される。起訴猶予処分、三高退学。1934年(S9・9・29) 100日間の勾留で留保処分。東京・城南地区で全協加盟日本食品労働組合などのオルグ活動。1937年(S12・12・17日) 検挙。加藤勘十郎の「人民戦線」を隠れ蓑に党再建を計っていた

が、第一次人民戦線検挙に連座。

1941年5月23日まで釧路刑務所で懲役刑。1941年(S16・11・11)、東京・中野の予防拘禁所に非転向を理由に拘禁され、1943年10月末釈放される。

④岩波新書「紅萌ゆる」は、土屋の三高時代の三人称記述の自伝。「京都帝国大学学生運動史」では、土屋は三高の自治会キャップとして「自由の鐘」第4号まで発行、京都地方学生自治会協議会の書記局長とある。

国賠同盟の京都同盟員の皆さんへの訴え

『レジスト京都』の第二期にむけて、補遺版を充実させるためにも購入し学習し、顕彰記事の通信をお願いします。

支部だより

京丹後支部

副支部長 森 勝

支部総会以後の活動が一服状態になってしまいました。京都府本部の関係では「レジスタントの京都出版記念パーティー」に1名、「錚々たる顔ぶれだった」治安維持法100年を問う「京都のつどい」に3名参加しました。「400名の多くの人が集りびつくりするとともに講演の内容から多くのものを学んだ」。

「この時代に民主的な世の中を目指し頑張つてこられた人たちの志を、今生きている私たちはしっかりと受け継いでいかなければならないと思います。今の政府は戦争する国づくりへと突き進んでいます。講演された荻野先生のお話にあった『現在は

【新しい戦中】前夜』という言葉が頭に焼きつきます。この交流会を通して、国賠同盟の活動の大切さを改めて思い、微力ながら活動をさらに強めていこうと思ひました。」

「レジスタントの京都」は全員に届け、感想も寄せられました。

「戦後の日本の支配勢力による『軍国主義政策に対する無反省』

が、今回の極右・排外主義を生んでいると実感しています。侵略戦争・植民地政策、天皇制護

持の為に治安維持法によって、国民を弾圧した手法は差別、排

外思想の植え付けから始まった。これが助長される先は『新たな戦争』づくりへの道であること

を警鐘していかねばと！」

賛同金も約23,000円寄せられています。同盟員以外から

も注文がありさらに普及していきます。第1回の支部委員会を

早急に開催して年末にかけて国

会請願署名(個人・団体代表者)に本腰を入れる予定をしています。

宇治洛南支部

支部長 山崎恭一

治安維持法100年の年に支部総会を成功させよう

10月4日の理事会では、支部の総会を12月7日に開くこ

とを決めました。京田辺など南部にも活動が広がったので、京

田辺市や木津川市からも便利な城陽の文化パークを会場に設定

原田会長の記念講演もお願いすることにしました。新しい役員

に現職の宇治市議などを迎えて体制を強化しつつあります。

コロナ禍で集まっていた総会がで

きなかったことなどで、近年参加者の少ない総会になっていま

したが、今年は100年にふさ

わしい総会にしようと思つています。いろいろ準備もあるので来年という声もありましたが、やっぱり100年の年に開こうということになりました。

5月に続いての労組や市民団体を訪問し、「レジスタントの京都」と国家賠償署名への協力を訴えました。教組、退教、新婦人、京建労、宇治市職労、共産党洛南地区、高齢者事業団、宇治民商や病氣療養中の顧問宅も訪問。治安維持法100年の新聞やテレビでの記事や番組を見た方も多く、例年とは反応が違ふと感じます。極右政党が選挙で進出した危機感も話題になりました。「レジスタントの京都」も持つて行った分が売り切れ、京建労宇治支部からは、10日後には「署名集まったよ」という電話が入りました。

